

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒の「社会と調和し、自立して生きる力」を育み、地域から信頼される学校

生徒に以下の力をつけるために、多様な学びを実践し、地元保・幼・小・中・大学、企業・施設など関係諸機関と連携を深め、地域の組織・人材を活用して大阪府でもっとも進んだキャリア教育を行うことで、総合的な「学校力」を高めて、生徒一人ひとりが「入って良かった」と思える学校づくりを実現する。

- (1) 自己を高める力（確かな学力・ねばり強さと未来に希望を持つ志）の育成
- (2) 人とつながる力（人とつながる喜びを知り、自分を大切にするとともに他の人も大切にし、周囲と協力し合う力）の育成
- (3) 社会に貢献する力（地域・社会に貢献しようとする意欲と実行力）の育成

2 中期的目標

1 学習活動の充実

- (1) エンパワメントスクールの特徴を踏まえ、「わかる授業づくり」「魅力ある授業づくり」に向けて、全教員が授業力向上に取り組む。
- (2) エンパワメントスクール（総合学科）として選択科目及びエンパワメントタイムの学習内容の充実と新学習指導要領における教育活動の充実を図る。
* 生徒学校教育自己診断における「授業わかりやすく楽しい」肯定的評価（授業満足度）を令和8年度にも75%以上を維持する。
(R3 : 69.7%、R4 : 73.9%、R5 : 78.3%)

2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり

- (1) 生徒一人ひとりを大切に生徒指導を通じて、生徒の規範意識の醸成と基本的生活習慣の確立を図り、中途退学を防止する。
* 中途退学率を令和8年度にも5%以下を継続する。(R3 : 5.1%、R4 : 4.3%、R5 : 5.7%)
- (2) 生徒が安心して学校生活を送れるよう、保護者との連携を強め、担任・学年団、生徒指導部、人権保健部、教育相談等が連帯して、組織的に面談、家庭訪問をはじめ日々の連絡強化に努める。
- (3) 中高連携を密にし、中学時の状況を早期に把握し、個々の生徒指導に活かす。
- (4) スクールカウンセラー（SC）スクールソーシャルワーカー（SSW）キャリア教育コーディネーター（CC）との連携を密にし、教育相談体制を充実させる。安心して学ぶことができる環境を確保するとともに、不登校経験のある生徒や障がい等により配慮や支援を必要とする生徒、日本語指導が必要な生徒等に対して、個別の状況に応じた学習支援や進路支援を行う。
* 生徒学校教育自己診断「悩みや相談に応じてくれる」肯定的評価を令和8年度にも75%以上を継続する。(R3 : 69.4%、R4 : 77.6%、R5 : 77.9%)
- (5) 生徒会活動や特別活動、学校行事を通じて仲間づくりや生徒の自己有用感を高め、学校・学年・学級への帰属意識を醸成する。
- (6) 人権教育を推進するために、教職員が校内校外の研修に参加し、さまざまな人権教育の理念を学び共通理解を深め、すべての教育活動の中に人権教育を位置づけ、教育実践への反映に努めることにより人権教育を推進する。
- (7) 外国にルーツがある生徒が多い学校として「多様性」を大切に、学習保障と進路保障支援を行うとともに、一人ひとりの力を最大限に伸ばす教育を進める。
* 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価を令和8年度にも80%以上を継続する。(R3 : 76.9%、R4 : 83.6%、R5 : 87.7%)

3 キャリア教育・進路指導の充実

- (1) 卒業後をみすえた進学・就職支援（勤労観・職業観・社会人基礎力を養い、将来の自分の生き方に展望を持つための働きかけ）を積極的に行う。
- (2) 学ぶ、働く、自分らしく生きることの大切さを理解し自己肯定感を育めるよう、発達段階に応じた系統的なキャリア教育・進路指導を実践する。
- (3) インターンシップやデュアル実習を通して地域を中心とした事業所・施設・教育機関等との連携を強化し、ともに次の世代を育てることにつながり合い、学び合い、助け合いながら組織としての成長を図る。
* 進路決定率を令和8年度にも85%以上を維持する。(R3 : 84.5%、R4 : 79.9%、R5 : 89.3%)
* 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方」肯定的評価を令和8年度にも85%以上を継続する。(R3 : 82.5%、R4 : 85.6%、R5 : 85.4%)

4 エンパワメントスクールの教育活動の充実と積極的な情報発信

- (1) エンパワメントスクールとして教育活動を充実させるように、教職員が一丸となって取り組む。
* 生徒学校教育自己診断における「学校に行くのが楽しい」肯定的評価（学校生活満足度）を令和8年度にも75%以上を維持する。
(R3 : 64.9%、R4 : 71.8%、R5 : 75.6%)
* 生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価（エンパワメントスクール満足度）を令和8年度も80%以上を継続する。(R3 : 78.5%、R4 : 83.6%、R5 : 86.6%)
- (2) 学び直しやデュアルシステムや人権教育をはじめとした学校のさまざまな教育内容や魅力等を、保護者、中学校、地域、府民に向けて積極的に情報発信し、学校イメージの向上を図る。

5 教職員の働き方改革を進める

- (1) ノークラブデー・全庁一斉退庁日・夏冬の学校休業日の実施を徹底する。
- (2) 業務の精選を行い、効率的な学校運営に努め、超過勤務時間の縮減を図る。
* 教員の時間外勤務の年間平均時間を令和8年度には295時間以下とする。(R3 : 361時間52分、R4 : 314時間36分、R5 : 296時間)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[令和5年度値]	自己評価
1 学習活動の充実	(1) 生徒が集中して学習に取り組める学習環境の整備と、わかる喜びや学ぶ意欲を引き出す授業展開	(1) ア 授業規律を一致して指導し、授業等を通じた生徒指導を行うことで、落ち着いた授業環境を作る。 イ モジュール授業や習熟度別授業を中心に、わかる喜びや学ぶ意欲を引き出し、基礎基本の学力の定着を図るとともに、生徒の自己肯定感を高める。 ウ 障がい等により配慮や支援を必要とする生徒、日本語指導が必要な生徒等に対して、個別の状況に応じた学習支援や進路支援を行う。	(1) ア ・ 生徒学校教育自己診断「授業はわかりやすく楽しい」肯定的評価(授業満足度)75%以上維持[78.3%] イウ ・ 生徒学校教育自己診断「30分授業」肯定的評価85%以上維持[91.5%] ・ ユニバーサルデザインの観点から、教材や配付プリントを作成する。	
	(2) エンパワメントタイムにおける授業内容の充実	(2) ア 「正解が1つではない課題」に取り組みせ、社会人基礎力、コミュニケーション能力、情報活用能力を身につけさせる。 イ 1年生のインターンシップと2・3年生のデュアル実習を中心としたエンパワメントタイムを通して、自己実現を図ろうとする意欲や態度を育む。 ウ 外部や地域の教育力を活かした授業展開を積極的に実施する。	(2) アイ ・ 生徒学校教育自己診断「教え方に工夫している」肯定的評価85%以上維持[88.7%] ・ 教職員学校教育自己診断「参加体験型の学習指導等の工夫改善」肯定的評価85%以上維持[91.4%] ・ インターンシップ出席率の維持[95.0%] ・ デュアル実習出席率の維持[94.5%] ウ ・ 生徒学校教育自己診断「授業や部活動などで、保護者や地域の人と関わる機会がある」肯定的評価50%以上維持[50.9%]	
	(3) 教職員の授業力等の向上	(3) ア 法定研修等を活用した授業研究や公開授業週間を積極的に展開し、各教員が「わかる授業」「生徒の学習意欲を引き出す授業」づくりのための授業改善に取り組む。 イ ICTを活用した授業を推進し、「主体的・対話的で深い学び」の深化を図る。 ウ ミドルリーダーの育成及び経験年数の少ない教員の育成を図り、学校力を向上させる。	(3) ア ・ 授業研究や公開授業を実施し、教科会議等で授業改善について検討する機会を持つ。(授業研究年5回以上実施) ・ 教職員学校教育自己診断「指導方法等についての検討」「授業内容について」「指導方法の工夫・改善」に関する項目の肯定的評価平均60%以上を維持[61.5%] イ ・ 教員学校教育自己診断「学校は1人1台端末を効果的に活用」肯定的評価アップ[74.1%] ウ ・ 校内初任者研修の充実	
2 人権教育を基盤とした丁寧な生徒指導と魅力ある学校づくり	(1) 一人ひとりの生徒をしっかりと把握し高校生活に定着させるための生徒指導と外部連携の充実	(1) ア 丁寧な遅刻指導、頭髪指導や服装指導等により、規範意識や基本的な生活習慣の定着と自主性の伸長をはかる。 イ 丁寧な家庭連絡や家庭訪問等、保護者との連携により信頼関係を築き、生徒理解に繋げる。 ウ 中高連絡会の開催や入学当初の随時迅速な中高連携を実施し、一人ひとりを大切に生徒指導やキャリア教育に活用する。 エ いじめ対策委員会を中心に、いじめを早期に発見し、迅速かつ適切な対応を行う	(1) アイウエ ・ 中高連絡会の実施 ・ 入学当初の随時迅速な中高連携を実施 ・ いじめ対策委員会の迅速実施 ・ 中途退学者率5%以下[5.7%] ・ 欠席のべ人数の減少[7232人] ・ 遅刻のべ人数の減少[4387人]	

	<p>(2) 生徒を受け止める教育相談の機能充実と生徒の居場所となる学校づくり</p>	<p>(2) ア 要配慮生徒等に関する生徒の情報共有会議を実施し、教育活動全般に活かす。専門人材(SC及びSSW等)との連携を強化し、迅速に要配慮生徒のケース会議を実施する。また、生徒の状況やニーズに応じた学習支援等、支援体制や学習環境を充実させる。</p> <p>イ 子ども家庭センター等、関係外部機関との連携を拡充し、教育相談を充実させる。</p> <p>ウ 生徒が安心できるクラスづくりを進めるとともに、学校生活等の悩みを相談できる居場所の設置や専門人材(SC・SSW)等による生徒や保護者への支援(SST等)を拡充し、学校生活全般をサポートする教育相談体制を充実させる。</p> <p>エ 生徒会と協力して学校行事、生徒会行事、部活動の体験入部等、生徒活躍の場(自主的活動の場)を活性化し、生徒の高校生活の充実につなげる。</p> <p>(3) ア 生徒対象の人権学習を系統的に実施し、多様性を尊重する姿勢を身につけさせる。また、薬物乱用防止、性に関する指導、がん教育等の講演会を計画的に実施する。</p> <p>イ 人権教育やカウンセリングマインドによる生徒指導、教育相談、支援教育をテーマとした教職員研修を実施し、教職員の人権感覚を更に磨く。</p> <p>ウ 外国にルーツがある生徒のアイデンティティを大切にしつつ、他の生徒との交流を進め(多文化研究部の発表等)、ともに学ぶ多文化理解教育を推進する。</p>	<p>(2) アイウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒学校教育自己診断「担任以外にも気軽に相談できる先生がいる」肯定的評価 70%以上維持 [70.3%] 教職員学校教育自己診断「教育相談体制が整備されている」肯定的評価 80%以上維持 [82.8%] 情報共有会議の実施(学年会議・教科担当者会議) 専門人材や外部機関とも連携したケース会議の迅速実施 教育相談室・図書館の定期的な開室(昼休み) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会主体の行事等運営 生徒学校教育自己診断「学校・クラスが楽しい」の肯定的評価 75%以上 [74.2%] 生徒学校教育自己診断「学校行事は楽しく行えるよう工夫」肯定的評価 80%以上維持 [81.1%] 体育祭出席率 80%以上 [78.5%]、文化祭出席率 90%以上維持 [90.2%] <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」肯定的評価 85%以上維持 [87.7%] 各種講演会の効果的实施 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員研修年間3回以上 [7回] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒学校教育自己診断「渡日生の交流や多文化理解の機会が多い」肯定的評価 60%以上維持 [64.0%] 	
<p>3 キャリア教育・進路指導の充実</p>	<p>(1) 卒業後を見据えた体系的なキャリア教育の取組み</p> <p>(2) 地域等との連携強化</p>	<p>(1) ア インターンシップ、デュアル実習、各種検定試験の取組、進路説明会、社会人講話や、企業・専門学校・大学などの見学や体験の機会を設け、生徒が夢や志を持って自己の可能性を広げたり、進路設計への主体的意識を高めたりできるよう支援する。</p> <p>イ 進路講演等体系的なキャリア教育を通じて、進路決定及び定着に向けた取組みを継続する。</p> <p>(2) ア 生徒のニーズに合った、デュアルシステム協力企業・施設等との連携を拡充する。デュアル実習発表会の充実を図る。</p> <p>イ 企業関係者地域人材の方々をエンパワメントタイム等の講師に活用し、教育活動における地域とのかかわりを深める。</p> <p>ウ 地域の外部機関(東大阪市や中小企業家同友会や商工会議所等)や小・中・大との連携を強化する。</p>	<p>(1) アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> 進路未定率 15%以下維持 [10.7%] 学校斡旋就職内定率 95%以上維持 [100%] 生徒学校教育自己診断「将来の進路や生き方について考える」肯定的評価 85%以上継続 [85.4%] <p>(2) アイ</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域学校協働本部と連携したデュアルシステム意見交換会の開催 [1回] デュアル地域学校協働本部の開催年間3回以上 [3回] <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員・生徒による地域の外部機関のイベント、会合への積極的参加 [6回] 	

<p>4 エンパワメントスクールの教育活動充実と積極的な情報発信</p>	<p>(1) 教育活動の充実</p> <p>(2) 積極的な情報発信</p>	<p>(1) ア HR 活動、学年行事や課外活動を通じて、集団や学校への帰属意識や自己有用感を高める。</p> <p>イ キャリアコーディネーター (CC) 等外部人材の活用を進める。</p> <p>(2) ア 中高連携・学校説明会、公開授業を積極的に実施し、本校の特色の理解と信頼を獲得する。</p> <p>イ ホームページ (HP) や様々な媒体を活用し、中学生・保護者・地域へ、本校の魅力や生徒の高校生活の様子について、掲載し、広報活動を行う。</p> <p>ウ PTA・同窓会との連携を充実させるとともに、学校行事への参加や PTA 活動への参加を呼び掛け、活性化させる。</p>	<p>(1) アイ ・ 生徒学校教育自己診断における「エンパワメントスクールに入学してよかった」肯定的評価 85%以上維持 [86.6%] ・ CC 等外部人材の積極的活用</p> <p>(2) ア ・ 広報を目的とした、全職員による中学校訪問の継続 [85 校] ・ 学校説明会参加者 300 人以上 [247 人]</p> <p>イ ・ リーフレットのリニューアル ・ HP のブログ更新 60 回以上 [68 回]</p> <p>ウ ・ 保護者学校教育自己診断における「授業参観や学校行事に参加」評価 40%以上 [R5 データなし]</p>	
<p>5 教職員の働き方改革を進める</p>	<p>(1) 働き方改革</p>	<p>(1) ア 全庁一斉退庁日・夏冬の学校休業日の実施の徹底等、働き方改革について、教職員の意識を高め、仕事の効率化を図る。</p> <p>イ 時間外勤務の多い人の状況を把握し、声掛けするとともに、時間外勤務時間個票の配付を継続して健康管理への留意を促すとともに、縮減に向けて産業医と連携や助言の活用を進める。</p>	<p>(1) アイ ・ 校務の情報化・合理化等の推進 ・ 教員時間外勤務の年間平均時間 295 時間以下 [296 時間] ・ 教員月 80 時間超過者の延べ人数の減少 [10 人]</p>	